

基本理念： 地域と共に21世紀的課題に立ち向かう大学 人口減少・少子高齢化時代における地方の「新しい社会づくり」の実現・モデル化

新しい社会と大学の目的

地方分散型で経済の低成長時代を人間的、
創造的に生きていく知恵と技術
人口減少・少子高齢化でも、一人ひとりが豊かに、
希望に満ちて生きていけるライフスタイル

**個人のWell-being、
社会のWell-beingの実現をめざす大学**

第4期における大学のあり方

社会に開かれ、異質な人々が出会う場
これからあるべき社会の姿と共に探究
新しい社会をつくるための思想や価値観、
知識や技術、構想力や実践力を獲得

**試行錯誤、実践と反省を繰り返し
新しい社会を生み出す
「社会づくりの実験室」**

人材育成方針

アカデミックな学び、震災・原発事故からの経験を活かす
10年先の課題を見すえた人材育成
未来志向的、社会のハブ、困難な問題解決に挑み、
社会の価値観や技術を創造的に再構成しようと挑む人材

**地域および世界の
「21世紀的課題」に取り組む
イノベーション人材の育成**

教育のあり方

- **地域の現状・課題と大学での学びを重合、地域実践型プロジェクト学習を拡大**
- 人材育成方針をすべての教育課程に通貫、学士課程から修士課程までの教育を体系的に連続
- PBL、ICT、STEAM、グローバル、シティズンシップ等の教育
- 基礎的な知識の習得と実社会での応用、地域と世界の問題発見、異文化コミュニケーション、問題解決にむけた主体的な学習、などを高度に融合・充実



研究のあり方

- **地域課題・21世紀的課題に対応した基盤的研究を政策的に強化、既存の学類・研究科の研究の「強み」を明確化**
- 人文・社会・理工・食農の各分野の高度な融合と総合性を実現させるために、異分野間の共同研究を推進
- 「発酵醸造研究所」を発展させ、「福島国際研究教育機構」へ積極的に参画し、大学全体の研究・実践フィールドとして位置づけ

地域貢献のあり方

- **地域社会に新しい形を提案し、10年後を見すえた地域の在り方を追求**
- 大学としてなすべき社会貢献の在り方を再構築して重点化
- アクション・リサーチのように教育・研究に還元される仕組みをデザイン
- 地域と協働し、学生の学びの場・研究のフィールド・地域の課題解決の3つの領域を有機的に融合

